

イブニングサイトビジット

フレンズ・オブ・マウントテイバー

2013年8月20日

文責：2013年東京財団週末学校研修生 新潟県村上市 富樫 充

市が整備した公園を、劇場を含めた公園改修とともに、住民が維持管理を含めた主体的なかかわりを進める状況とともに、市における雨水排水の取り組みにおける市民参画について、受講する。

I Mt テイバーでの取り組み

○ 公園での取り組み概要

- ・道路建設工事で、ここが火山と判明（火山灰の発見から）し、市が公園として整備する。
- ・2000年から公園の維持管理をするための組織として「フレンズマウントテイバー」を結成する。
- ・会の目的は、安全で自然な公園を維持することとして、取り組みを進めている。
- ・会費1人15ドル。年間4万ドルの資金により活動を進めている。
- ・市費で賄えない部分に会費を活用する。う
- ・同じく2000年からフットパトロールを行い、55名のメンバーで2名1組となり、落書き、ごみ、犬のリードをつけているか見張る取り組みを行う。
- ・この公園では、様々な催しが行われ、結婚式や自転車レース、スケボレース、自然キャンプなど、多様な活用がされている。また、毎月火曜日にはコンサートを開催。約1500人が毎回集う。
- ・フレンズの新しい活動として「ビジターセンター」を運営しており、年間1万人が来館し、子どもたちが教育に関する目的で、世界各地から来場する。
- ・ポートランドには200の公園があり、200の公園を維持する組織がある。

○ なぜ、この公園管理にかかわりを持ったか

- ・1960年代はファミリー向けの公園として開設。
- ・1970年代には衰えが始まり
- ・1980年代には、施設の衰退とともに、安全ではない公園になってしまった。
- ・1990年代に、市の公園局が公園を改築し、劇場を整備する。整備の過程でネイバーフットがサポートをする。そうすれば、周辺地価も上がると考えたところもあった。

その過程の中で、市との信頼関係を構築することができた。（市との信頼関係は、整備を進める際、週に1回の話し合いにより生まれたもの）

○ 活動の広がり

- ・自然回帰の活動として、外来種の植物を除去し、シダ類などの在来の植物を植える。
- ・小学生もかかわり、回復を進めている。

II 水道管の老朽化に伴う改修 アン（市環境局職員）

水道管が老朽化し、降雨により雨水が流れ込む状況がある。衛生上よくないため、雨水が混ざらないような取り組みを進める。

- ・道路歩道などに住民とともに植栽帯をつくることで、雨水を浸透させ、水道管に入り込まないようにする。

- ・また、駐車場を有するレストラン等にも協力をもらい、敷地の緑化などを進めていただき雨水の排水を有効活用してもらおう。
- ・マウントテイバーのコミュニティを巻き込んだ取り組みとして、庭先に在来種を植栽する取り組みを推奨するとともに、グリーンスペースを活かした水の還元する仕組みを構築する。
- ・そのことで、水道管を交換するコスト 1400 万ドルが 650 万ドルのコスト縮減につながる。
- ・また、子どもたちへの教育も合わせて進め、地域の子どもたちも意識ができるように学校の授業で水の還元に関する授業を行う。
- ・地域の企業に対しても、やる気のあるところからアプローチをし、現在、そこから広がりが見られる。